

令和6年度学校経営計画 学校評価書（最終評価）

学校経営計画 ミッション追求のための取組 及び 重点的取組	分 掌 名	具体的な方策	目標とする状態・達成基準	達成状況（中間）	中間評価	達成状況（最終）	最終評価	結果分析及び改善策
<p>ミッション追求のための取組 生徒とともに</p> <p>【1年次「基盤づくりと学類選択」】 ・基本的生活習慣の確立と主体的に学ぶ態度の育成 ・互いを尊重する人間関係の構築、多様な体験による自己の理解と発見、自己実現に向けた学類選択への支援</p> <p>【2年次「活動の充実と進路選択」】 ・学類を特色付ける教育活動や発信の充実を通じた、高度な知識・技能を活用するための高い思考力、判断力、表現力の育成 ・探求的な学びや学校行事を通して協力し助け合う人間関係の構築、キャリア形成と進路選択への支援</p> <p>【3年次「自己実現」】 ・学びを自らの意思と意欲で深化させていく資質や能力、態度の涵養 ・自己実現に向け、互いに支え高め合う人間関係の構築と、卒業後の人生設計を踏まえた進路決定への支援</p>	1年次団	「予習・授業・復習」の学習習慣と3点固定の生活習慣を確立させるとともに、学校行事、委員会活動や部活動に、協働的・自律的に取り組ませる。	勉強と部活動、学校行事とのバランスを自分で上手にとり、すべきこととできることを前向きに考え、「凡事徹底」「文武両道」を実践できる。	年度当初のオリエンテーションや研修、企業訪問などを経験して、協働的、自律的に物事に取り組む意義や楽しさを学ぶことができている。学習とその他の活動のバランスもとれつつある。	B	学校自己評価の、学校行事は生徒が中心となって取り組んでおり、充実したものになっている、生徒が部活動に熱心に取り組み、充実感が得られる、という項目の数値は高く、自律的、協働的に取り組み、充実した学校生活が送れていると評価できる。学習面においても意識が向上してきている	A	「予習・授業・復習」の学習習慣と3点固定の生活習慣が十分に確立できていない生徒もいるので、その生徒に対する意識付け、動機付けが課題である。
	2年次団	学校の中心年次として、学校行事、部活動等で生徒同士が協働して取り組み、自主的・自律的に行動できるよう支援する。また諸活動を通じて自らの適性を知り、よりよい進路目標が設定できるよう支援する	積極的に挑戦する姿勢をお互いに尊重しながら、支え高め合う人間関係が構築できる。学年目標の『和して流れず』『凡事徹底』を実践できる。	翠緑祭やオープンスクールの準備、また部活動などにおいて、中心年次としての自覚を持ち、生徒同士で協働し、取り組むことができている。	B	学校行事や部活動、委員会活動等で中心年次としての自覚を持ち、コロナ明けの新しい在り方を模索しつつ、協働的自律的に取り組み、成果を上げることができた。	B	諸活動で中心となる生徒が目標高く自主的に取り組める一方抱え込む傾向にもあり、集団としてフォロアーシップのさらなる涵養が求められる。
	3年次団	最終年次として、部活動や学校行事など全てにおいて全力でやり切れ、面談や年次集会だけでなく日々の指導や声かけを通して、受験への切り替えについて支援する。	生徒一人一人が自らやるべきことを判断し、全力で取り組んでいる。また、生徒同士が互いに認め、高め合う集団になる。	多くの生徒が最後まで部活動をやり切り、受験へと意識が大きく切り替わっている。また文化祭・体育祭ではお互いを尊重しつつ協働して行事にあたることができている。	B	最終年次として、部活動、学校行事等を全力でやり切った後、受験に向けて意識を切り替え、自らが進むべき道を目指して学習に取り組み、成果を上げることができた。	B	志や目標を高く持ち続けさせるためにさまざまな取り組みを粘り強く行ってきた一定の成果は出ているが、さらなる工夫が求められる。
	進路指導課	キャリアカウンセリングとしての面談に加え、大学説明会の開催や学習支援、土曜講座などのさらなる充実を図り、主体的な学びを後押しし、主体的で多様な進路選択、およびその実現を支援する。	大学説明会や学習支援について、継続的な実施と内容の充実がなされ、多くの生徒が積極的に参加している。学校自己評価4「城東高校は、自分の進路選択に向けて、面談や講習会などを通じてきめ細かな指導を行っている」の評価を保持する。	大学説明会については、6回実施。うち、卒業生によるものも回実施している。今後とも積極的に進めていきたい。学習支援については、のべ2000名を超える生徒が受講し、好評だった。	B	大学説明会は12回実施。うち、卒業生によるものが6回ある。昨年度とは異なる大学や、芸術関係も実施できた。教員の参加も増えつつある。学習支援については、6月実施の講座の追加で共通テスト対策が実施できた。また、プログへのアップなどを通じて、保護者にも取組の様子が伝わるように配慮した。	A	概ね定着してきたが、今後は組織的に取り組める体制作りが課題である。教員の負担にも配慮しつつすすめていきたい。学校自己評価4「城東高校は、自分の進路選択に向けて、面談や講習会などを通じてきめ細かな指導を行っている」の評価は保持できた。
	国際課	海外文化体験研修カナダコース、FLAT in OSAKA、海外修学研修、交流会、講演会等の活動の充実を図る。	1年次生が海外文化体験研修カナダコースに30名程度、FLAT in OSAKAに20名程度、2年次生が海外修学研修に20名程度参加する。	海外文化体験研修カナダコースに28名、FLAT in Osakaに22名参加。2年次理数学類を対象とした米国人国際交流員によるIT関連の講義を実施。1年次生で国際教養学類に進級予定者70名と岡山大学留学生との交流会の実施。海外修学研修オーストラリア・パースに2年次生12名が参加予定。	A	海外文化体験研修カナダコースに28名、FLAT in Osakaに22名参加。2年次理数学類を対象とした米国人国際交流員によるIT関連の講義を実施。1年次生で国際教養学類に進級予定者70名と岡山大学留学生との交流会の実施。海外修学研修オーストラリア・パースに2年次生12名が参加予定。	A	1年次の行事としての海外文化体験研修カナダコースとFLAT in OSAKAの参加者は想定通りであったが、2年次の海外修学研修オーストラリア・パースは12名に留まり学類研修（グアム）との兼ね合いが難しかった。2年間で3回海外研修に参加することは難しい。また、国際課の海外研修の内容を担保することが必要。他の高校では体験できない大学での講義の受講などレベルが高く将来の留学につながるようなプログラムを考える必要がある。
	GLOBAL	「総合的な探究の時間・学校設定科目」における地域密着の課題研究の取組を充実させ、課題解決能力や、他者と協働する力を育成する。	学校自己評価アンケートの質問項目「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」の生徒平均値が例年と同じ水準を維持する。	必要に応じて各年次GLOBAL係で会議をもち情報共有をすることで、縦横の連携をとりながらの適切な運営がなされている。講演会や企業訪問等の事前学習・事後学習（振り返り）において、昨年と同様に充実した取組がなされている。	B	1年次企業訪問や国際交流の活動内容の拡大・充実に努めた。学校自己評価アンケートの質問項目「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」の生徒・教員平均は昨年度より若干下回ったが、保護者の平均は上回っている。他のグローバルに関する質問項目も例年並みで、種々の取組成果が生徒や保護者に届いたと判断できる。	B	外部への発表等、年次によっては定期的に準備日程の確保が難しいものもあるので、改めて係で内容を精選するとともに、より生徒の主体性を引き出す仕組みを考えていきたい。
生徒課	成績を示す資料に所属部活動を表示する。部活動と学習の両立に係る情報を共有できる情報交換会や座談会を設定する。	生徒の自主性・自律性を向上させつつ、学習と部活動の両立が図れるようにし、部活動と学習の両立に係る学校自己評価のポイントを昨年度より向上させる。	考查前の調整練習は、勉強との両立ができるように配慮する依頼を顧問へ促している。	B	成績を示す資料に所属部活動を表示することができ、担任や顧問が生徒の実態を把握しやすくなった。情報交換会や座談会の機会は2回と少なかった。学校自己評価のポイントの変化は無かった。	B	学校自己評価のポイントの変化は無かったので、生徒課・進路課・各年次との連携を図れる取り組みが必要である。その取り組みが生徒や保護者にも伝わるようなアナウンスを行いたい。	
<p>ミッション追求のための取組 保護者とともに</p> <p>共に生徒を育てるよきパートナーであり続けるために、対話・情報共有を積極的に行う。 ⇒保護者懇談・三者懇談の充実、公開授業・学校行事の開放等の開かれた学校づくり等</p>	1年次団	相談課、保健室、医療機関等との連携を密にして、生徒・保護者の理解に努め、悩みを抱えた生徒を支援する。お互いを認め合い、自己も他者も大切にできる集団作りをする。	悩みを抱えた生徒に対する必要な支援を早期に行うことができる。生徒自身が協働的な取り組みを通して自己肯定感を高め、安心して学校生活を送ることができる。	悩みを抱えた生徒、保護者に対して、相談課、保健室、医療機関等との連携を図りながら支援をすることができている。各クラス担任が生徒と程良い距離を保ちながら接していて、長期欠席の生徒は少ない。	A	悩みを抱えた生徒や保護者に対して、相談課、保健室と連携を取ることができている。長期欠席の生徒の中にはクラス担任の声かけで、来るようになった生徒もいる。	B	相談室、保健室との連携とともに医療機関等との連携も必要になってくる。
	教務課	6月と10月に保護者対象の授業公開を実施し、学校の実態について理解を深めるとともに、教員が取組について改善を図る契機となるようアンケート結果を全教員に共有する。	保護者が城東高校の授業に理解を示し、自らの声が学校に届いていることを実感できている。	6月に第1回の保護者対象授業公開を行い、昨年度の約2倍にあたる延べ200名を超える保護者に授業参観をしていただいた。アンケートについては、QRコードを読み取っての入力としたため、回収率は下がったものの、肯定的な意見が多かった。	A	10月の第2回の保護者対象授業公開でも、昨年度より多い110名の保護者に授業参観をしていただいた。アンケートは、前回と同じくQRコードを読み取っての入力としたため、回収率は25%ほどであった（第1回も同様の回収率）が、具体的な授業名を挙げて好評いただくなど、肯定的な意見が多かった。	A	2回の公開日がいずれも同じ曜日であったため、曜日が異なる方が参加しやすい、という保護者からの意見があった。また、1回目の公開は定期テスト直前であり、授業内容が組み立てにくいという教員側からの意見があった。次年度の日程を検討するときに考慮していきたい。
<p>ミッション追求のための取組 地域とともに</p> <p>本校の教育を広く発信して本校教育への理解を促し、支援者・実践者を増やすことで協</p>	総務課	・オープンスクールや学校説明会、本校HPにおいて、生徒が主体となって活動する様子を積極的に発信する。 ・特にオープンスクールにおいては、学校の様子を生徒自らが発信することで、生徒の自主的自律的行動力も育成する。	・在校生の活躍を中学生・保護者が好意的に受け止め、「求める生徒像」を理解した上で本校を志願している。 ・生徒のメタ認知として、自主的・自律的行動力が高まっている。	事前周知の効果もあり、学校説明会の申込み状況は良好である。中学校・塾等からの依頼も増えている。オープンスクールは生徒課と連携しながら生徒主体となるよう企画を進めている。城東BLOGの更新頻度を増やすとともに、随時Classiにて保護者へ周知し、より効果的な運用に結び付けている。	B	学校説明会アンケートの肯定的評価は98%を超えた。オープンスクールでは、生徒の主体性を高く評価する記述が中学生・保護者ともに高く、ねらいが達成できた。プログ更新のClassiによる周知は、PTA評議員会でも高い評価をいただき、学校自己評価アンケートの保護者の項目が上昇した一助となった。	A	学校説明会の枠組みは今年度と同じものを次年度に踏襲しても差し支えない。申込み数が全て事前に定員に達しており、オンライン等の対策を講じたが、次年度は可能な範囲で定員を増やしていきたい。グランド駐車場が雨天により利用できなかった。暑さ対策も含め、その在り方を再検討する必要がある。

働いて生徒を育てる。 ⇒グローバル・リーダー育成拠点構築事業を軸とした、外部機関連携や地域とつながる活動の推進等	GLOBAL	グローバル・リーダー育成拠点構築事業の取組を外部発表や成果報告会を、オンライン等も含めた多様な手法で発信する。	各種発表会への参加、成果報告会の開催、オンライン等も含めた多様な手法で発信し、受け手のニーズに応える。	教員には回覧を利用し各年次団と連携を取りつつ、生徒には Classi や掲示板等を活用して外部発表の情報を効果的に発信し、生徒の主体的な参加を促した。	B	中間発表・最終発表では岡山大学以外の大学からも指導助言を依頼することができた。また、研究を進める中で、直接指導助言をして頂くことができた。Classi で配信した外部発表への参加について、自主的に参加しているものも含め、把握しているのは2件だが、成果はあったと判断してよい。	B	本校代表として参加する各種発表会は、年度当初に係で共有はしていたが、代表グループの選出に難航した。次年度は係会等でこまめに共有した後、年次会でも早めに情報共有していきたい。
	生徒課	生徒会活動を中心に地元大学や地元企業と協働し生徒が主体的に学ぶ場の設定や有識者の講演の機会を設ける。	卒業生・地元企業・地元大学と連携し、外部との交流を深めながら、生徒の自己肯定感やリーダー力を高めることができる。	環太平洋大学や中国銀行東岡山支店との協働した取り組みの機会を計画中有る。	B	卒業生・地元大学・地元企業との連携は図れたが、取り組めた生徒数が述べ人数で40名程度だった。参加した生徒の感想からは成果が得られたと判断できたが、人数として100名程度は関わりを持たせたかった。	B	概ね計画通り取り組みしたが、より多くの生徒が参加できるようにアナウンスの仕方や日程の調整を再考したい。地域との連携の土台は構築できたので、来年度も継続したい。
ミッション追求のための取組 教職員として すべての教職員が安心して生き生きと働けるような環境を共につくりあげる。 ⇒学校の実情に即した実践的校内研修の充実、協働的な職場づくり等	総務課	・学校自己評価アンケートや新入生アンケート等をもとに、昨年度精選した広報の内容や方法を見つめ直し、より効果的・効率的な広報活動を推進する。 ・学校評価に係る各種アンケートを実施し、結果の共有を図り学校改善の一助とする。	・各種広報活動における発信内容の充実が図られ、効率的・効果的な広報活動が行われている。 ・例年並みの志願倍率を維持している。 ・学校評価に係る各種アンケート結果が共有されている。	新入生アンケートの結果と学校自己評価アンケートの結果を関連付けながら、生徒の声を中学生及びその保護者等に周知している。 学校評価を各部署内で共有し、自己目標シートに関連つけるよう周知をし、意図的・計画的な運用に結び付けている。	B	学校説明会だけでなく、スクールガイドやホームページも内容や作成スケジュール等を見直し、より効果的・効率的な広報活動に結びつけることができた。 学校評価を年間計画に組み込み、各部署での周知も含めて計画的に運用し、学校経営の成果と課題を整理することで学校運営の支えとなった。	B	今年度構築した学校説明会やスクールガイド作成・ホームページ更新の基盤を次年度にも引き継ぎ、よりよい仕組みを構築していきたい。 学校評価についても、より学校運営に結びつくような働きかけを行ってきたい。
	管理職	朝礼、職員会議、研修等を通じて、ハラスメント等の不祥事案を取り上げ、教職員間で話題を広げる。	・不祥事防止に向けたアイデアや改善点を共有し、教職員全体の意識が高まる。 ・ストレスチェック調査結果で、「仕事の負担」、「心身の健康度」等の要素数値がおおむね全国平均を上回る。	・5月の教員個別面談で、各教員がコンプライアンス遵守に向けて心がけていることを聞き取り、それを職員会議で共有した。 ・ストレスチェック調査の結果は、学校に届き次第、教職員間で共有する。	B	・教員の意識が高まり、実践面でもコンプライアンス遵守が強化された。 ・ストレスチェックの集団分析結果において、職場の弱みは「仕事の量的負担」で、9月と10月の平均時間外在等時間はどちらも50時間を上回ったため、メンタルヘルスを促進した。	B	教職員が実際の事例を通じて理解を深める機会を増やし、また、不祥事防止に関するアイデアや改善点を教職員間で積極的に共有できる場を設ける。さらに、教職員間の良好なコミュニケーションを促進し、面談等を通じてストレスの早期発見と対応に努めることで教職員の心身の健康度を高める。
	JLP	生徒の自己実現に向けて小論文、入試面接等に関する教員の指導力向上を目指すための研修会を企画・運営する。	小論文伝達講習会などの研修会を実施し、小論文、入試面接等に関する情報を共有できる。	7月末に小論文・志望理由書対策講座を若手教員(2名)に受講していただいた。それをもとに8月下旬、全教員に対して小論文伝達講習会を実施した。	B	7月末に小論文・志望理由書対策講座を若手教員(2名)に受講していただいた。それをもとに全教員に対して小論文伝達講習会を実施した。入試面接に関する情報は、進路検討会などのなかで紹介することができた。	B	小論文伝達講習会は、若手教員の研修をベースとして実施しているが、近年のテーマのトレンドや志望理由書の書き方も紹介できており、全教員にとって良い研修の場となっている。次年度以降も継続していきたい。
	厚生課	地震等の災害に対応できる実践的な防災避難訓練や防災について学ぶSHRを実施する。また、校内美化体制の整備、充実を図るため、美化委員会の活動を活発化させ、生徒が主体的に校内美化に取り組めるよう具体的な目標の設定や活動を支援する。	災害発生直後の教員・生徒の行動が明確で、スムーズな避難が可能な防災訓練や防災について学ぶSHRを複数回実施している。また、美化委員会を中心に重点目標が定められ、課題解決に向けて自主的な取組を実施している。	災害発生直後の教員・生徒の行動を明確にして、防災訓練を実施できた。また訓練方法や防災について学ぶSHRを実施した。美化委員会を中心に重点目標を定め、教員とも課題を共有して校内美化に取り組んでいる。	B	災害発生直後の教員・生徒の行動を明確にして、防災訓練を実施できた。また垂直避難時の避難経路確認についてSHRを複数回実施できた。美化委員会を中心に重点目標を定め、教員とも課題を共有して校内美化に取り組む機会をもつことができた。	B	教員・生徒の行動を明確にして防災避難訓練を実施できたが、天候によりグラウンドへの避難はできなかった。次年度も訓練計画に盛り込みたい。教員と生徒で清掃の課題を共有して校内美化に取り組めた。普段の清掃活動へもつなげていきたい。
重点的取組 (1) ICT活用も含めた組織的な授業研究に取り組み、「10の資質・能力」を学校として総合的に育成する。	JLP	教務課・進路指導課とともに「10の資質・能力」の育成を図るための授業参観などの研修会等を企画・運営する。	教科ごとの研修会や全体での研修を実施し、「10の資質・能力」を育成する基盤となる学習評価方法などを共有できる。	授業評価アンケートや自己評価アンケートなどを用いて、「10の資質・能力」を育成する基盤となる学習評価を各教科で共有できつつある。	B	教務課中心に11月～12月にかけて生徒による授業評価アンケート実施した。授業を通して「10の資質・能力」の育成されていることが評価されつつある。	B	生徒による授業評価アンケートにも「10の資質・能力」の視点を入れており、各教科の特徴・課題をふまえて授業改善につなげていきたい。
	教務課	「10の資質・能力」についての自己評価アンケートを実施し、生徒自身が現状を振り返るとともに、「10の資質・能力」の項目についての見直しを図る。	「10の資質・能力」を軸として、生徒自身が自己評価を通して現状把握と改善に向けた行動を起こし、「10の資質・能力」の項目について、各分掌からの意見を元に見直しができている。	5月末から6月にかけて、第1回目のアンケートを実施した。現在、集計、分析を行っているところである。	B	6月、12月にアンケートを実施した。1回目と2回目を比較すると、全体的にどの項目も上昇または同値の傾向にあり、年間を通じて、生徒自身も成長を実感できていることがうかがえた。	B	学校評議委員会では、調査する項目についてご助言をいただいている。見直しについて、次年度の検討課題としたい。
重点的取組 (2) 多様な生徒のキャリアupgradeを図り、キャリアカウンセリングやニーズに応じた種々の活動を充実させ、主体的なキャリア形成に資する。	相談課	現在の教育相談体制の維持・充実を図るとともに、様々な機会を捉えて教育相談的な発想を浸透させ、主体的なキャリア形成の伸長に寄与する。	①校外のカウンセラー、相談機関との連携を維持・発展させる。②進路面談に教育相談的な発想を生かし、自立の精神を涵養させる。	カウンセラー、校医、SSWとの連携はよく取れている。担任・保健室との意思疎通も図れており、早めの対応が行えている。	B	生徒の自己評価は4.1で維持されている。これは、普段の担任の先生方の対応が通じていることの表れであろう。保護者への浸透も引き続き考えていきたい。	B	教育相談に関しての校内及び校外の諸機関との連携はよく図られているので、この体制を維持・充実させていきたい。個々の教員に対するサポートもより深めたい。
	進路指導課	JLPや他の分掌と連携して、教育課程やそれに基づく大学入試で求められる力の育成に資する研修会への参加や伝達講習会の実施、また面談の校内研修会を実施する。入試に関する情報の収集を推進し、保護者との共有を図りつつ多様な進路の実現のための指導体制を検証する。	新教育課程やそれに基づく大学入試で求められる力を身につける手立てとして、補習や土曜講座、実力テストのあり方、またキャリアカウンセリングとしての面談のあり方が共有され、具現化できている。入試情報については、保護者とも共有されている。	入試研究会などへの積極的な参加、情報共有が進みつつある。また夏期の教科研修についても、教科単位での参加、情報共有の形ができつつある。小論文伝達講習会については、8月に実施予定とりつつ改善していきたい。	B	外部研修への教科としての参加、情報の共有、それを踏まえた生徒指導、という流れが少しずつできてきた。教科情報についての指導体制もひとまず整った。今後の状況を確認しつつ、年次・教科と連携をとりつつ改善していきたい。	B	教科研修の促進と、教科で連携しての生徒指導の体制を、今後も整えていきたい。また、新課程入試については、今後の状況をみながら対応していきたい。
重点的取組 (3) 地域と協働して生徒を育てる体制をより充実させるとともに、生徒が主体的に地域の活動等に参画しようとする意欲を高めるよう支援する。	図書文化課	・授業や探究学習を通じて、図書館の備える機能の周知を図り、デジタルデバイスだけでなく書籍や資料により検証できる機会の提供に努める。 ・委員会活動の活性化により、読書推進に努める。	・授業や探究学習等において、生徒が図書館の機能をうまく活用し、多面的視点を醸成できる。 ・読書を通じた交流を通して、本と人、人と人がつながり、知性や情操を深化できる。	・Globalの授業で利用する探究ポータルサイトについて生徒アンケートを行い、フィードバックを行った。 ・企画展示や学校祭への取り組み等、委員会活動が読書推進に寄与できた。	B	探究ポータルサイトの利用促進を図ることができ、Global等での生徒の活動に貢献できたと考え、委員会でも校外での活動に積極的に取り組み、多様な視点から読書活動の推進に努めることができた。	A	書籍の利用が年々減少する中で、授業や探究活動において、多様な情報ツールとともに書籍での検証を推進する必要があると考える。教員・生徒の要望に応えられるよう今後も努力を継続したい。
	生徒課	・保育園、こども園、小学生との交流会を年間6回実施する。 ・学類の特性を活かしたキャリア教育の観点で実施する。	地元企業と協働し、地域の保育園・こども園・小学校と交流するなどの社会貢献活動を通して、生徒の自己肯定感と社会性を高める。	小学生学習支援ボランティアにおいて、支援の小学校数を増やして募集し、延べ280名の小学生が参加した。	B	年間で予定していた6回の交流会は実施できた。学類の特性を活かした取り組みは1回にとどまった。部活動と音楽学類と関連のある取り組みはできた。事前事後指導が十分に行えなかった。	A	生徒の自己肯定感と社会性を高める機会は確保できた。3年間を見通した取り組みになっているか、成果を追跡調査し検証する方法を考えたい。